

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災現場において、活動中、熱中症を発症した事件事例
3. 体験した事例の中心的要素	高温下での活動で、経口補水液を摂取していなかったため。
4. 体験した事例の原因・理由	当事者は、週休日に重労働（農作業）を行っており、若干の体調不良であった。また、勤務中において、屋外でハードな訓練をしている中での出勤であり、出勤時、経口補水液を摂取していなかったため。 ※気象状況 天候:晴 気温:30.4℃ 平均風速:1.9m/s 相対湿度:72.7% 実効湿度:88.0%

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。（大丈夫だろうと思った。）
------------------	------------------------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成28年7月23日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外:建物火災現場周辺
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他:熱中症
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○当事者A	年齢[32]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[8] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

.....

	誰が(何か)	なにをした	その他・備考など
経過1	A	救助技術訓練を実施	火災出動まで
経過2	A	火災指令により出動	
経過3	A	現場到着後、ホース延長、屋内進入活動を実施	
経過4	A	目まい、息苦しさ、体が火照り、立位が困難	機関員と交代した
経過5	A	意識朦朧となり、救急要請	
経過6	A	救急隊到着後、意識レベル1 体温38.2℃	
経過7	A	病院到着 医師引継ぎ	点滴2本 酸素2ℓ投与
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

.....

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

その他: 火災出動前に屋外で訓練をしており、経口補水液を摂取せず出動

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

予期せぬ災害に備え、日頃から体調管理を整えておく。当務に支障をきたす、非番・週休の過ごし方を考え、高温下での重労働を抑制する。体調がすぐれない場合は、中隊長への申告も必要である。

○装備・資機材の対策について

車両には、スポーツドリンクしか積載しておらず、当事者も500mlを2本摂取していたが、高温下での活動は、スポーツドリンクよりナトリウム、カリウムを多く含んだ経口補水液の摂取が必要であるため、経口補水液を積載した。出動時には、必ず防火衣に保冷剤を携行することとした。また、予備の保冷剤も積載した。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

全隊員の悪条件での活動時間を、各級指揮車は、管理すべきである。また、長期の活動となる場合は、現場指揮本部で管理する。